

中野 寛之 議員

(一問一答方式)



- ①大洲農業高等学校用地の今後について
- ②生成AIの活用について
- ③大洲高校の魅力化向上について
- ④タクシー不足対策について
- ⑤ごみ拾いアプリの活用について

大洲農業高等学校用地の今後について

問 大洲農業高等学校用地の将来的な価値について、市として現時点でどのような考え方をしているのか。また、今後愛媛県との協議をどのように進めていく考えなのか伺いたい。

答 大洲農業高等学校の敷地は都市機能誘導区域内にあり、立地条件もよく、自家用車はもとより、JRやバスなど公共交通機関によるアクセスも容易であること、また東大洲こども園や現在整備を進めている市民文化会館にも近いことなど、その利活用は今後のまちづくりや地域活性化に大きな影響を与えるものと認識をしています。

さらに、高校の完全統合と市民文化会館の完成という大きな節目が重なることもあり、周辺エリアの将来像を一体的に描くうえでも大変重要なタイミングであると捉えています。現在老朽化している公共施設の在り方だけでなく、伊予大洲駅を含む周辺エリアの将来像を検討するよう、担当部局や若手職員によるプロジェクトチームに既に指示をしており、活力のある住み続けたいまちづくりに向けて、時期を失することがないように準備を進めています。

現時点では、愛媛県から校舎の取扱いや跡地利用に係る具体的な方針は示されていませんが、今後の県の検討状況や意向を伺いながら、本市の将来像や周辺整備との相乗効果など、利活用の方向性について県及び県教委と連携を密にして協議を重ねていきたいと考えています。

大洲高校の魅力化向上について

問 大洲高校で定員割れが続いている。大洲高校の

魅力化に関しては、市・学校・地域が継続的に意見交換を行う協議の場が必要であると考えているが、開催状況と今後の予定について伺いたい。

答 大洲高校の統合に係る新校の開設に必要な準備を進めるための新校開設準備委員会に、本市からは総務課長と学校教育指導監が委員として参加し、新しく統合する大洲高校の魅力化をどのように図っていくのかなどについて検討してきました。

この準備委員会は今年3月をもって解散となりましたが、これに変わり6月からは、県立高校振興計画後期計画の策定のための地域協議会が設置されることとなっています。

この地域協議会は、大洲・喜多圏内の市長、町長や市町の教育長、地域住民、小中学校長、高等学校長などで構成され、地域の意見や課題等を伺うものです。引き続き情報共有や意見交換を図るとともに、協議会以外の場においても、様々な機会を通じて高校と情報共有を図っていきたいと考えています。

ライドシェアの導入について

問 市内でのタクシー不足は身近な生活課題となっている。市民や観光客の移動ニーズに対応するため、市としてライドシェアの実証実験など導入に向けた具体的な取組を進める考えはないか伺いたい。

答 ライドシェアの導入については、移動の利便性向上という大きなメリットが期待される一方で、運行における安全性の確保、運行責任の所在、また地域交通を支えていただいている既存のタクシー、バス事業者との共存、共栄など、整理すべき課題も多く存在しています。そのため、これらの課題を解消し本制度を効果的に機能させるためには、公共交通機関やDMOなどとの緊密な連携が必要不可欠であると考えています。

そこで、検討に向けた第一歩として、大分県別府市が実証している湯けむりライドシェアの視察を計画しています。この視察を通じて得られた知見を地域の関係機関と共有をしながら、本市における実証実験の具体的な枠組みや既存事業者との共存の在り方について検討を進めていきたいと考えています。